

營業部移轉謹告

平町土橋通に店舗新築落成につき來正月一日移轉仕候間不相變御愛顧御引立奉希上候

醬油 味噌 酒類 鰹節
製 造 問 屋

合 造 釀 鹽 屋
山崎合名會社
營業部專用電話一〇番

體裁優美 一新 ヤマフルの商品券 御進物にはコレが一番

賣れ行きが事實を證明する
品質聲價共に拔群の!!

磐城セメント

磐城セメント會社特約店
和洋銅鐵 釜屋商店
金物問屋 釜屋商店
磐城平町五丁目 電話九番 一三九番
▲良品廉賣し勝る商畧なし
▲確實敏捷は釜屋の生命なり

平町屋 吉田眼科醫院

賣 廉 的 仕 奉 節 鰹

賣れる...うれる!!!
品がよいから飛ぶやうに賣れる
「お正月用の上等鰹節の産地より澤山委託入荷...大廉賣致します安價に賣れるため品質を疑ふ人もあらうが品質保證現品御一覽の上御買上を乞ふ」

●貳百匁以上 百匁に付 九十錢の割
●壹貫匁以上 百匁に付 八十錢の割
期間（二月七日より）但し賣切の時は御断り
◎鹽乾物類取揃へてありますから御買上を願ひます四丁目聯合福引券を差上ります

下印 伊藤魚問屋
平町四丁目電話特長五二八番

賣地廣告

平鷹匠町 九番ノ二
五畝歩 間口五間
奥廿五間
平機關庫裏道路に面し絶好の場所
右至急賣度し御希望の方は
平町三丁目卅三番地
鈴木勝藏
迄來談を乞ふ

京都產出瓦斯販賣 有聲座隣
コーラス特約販賣
平鷹匠町

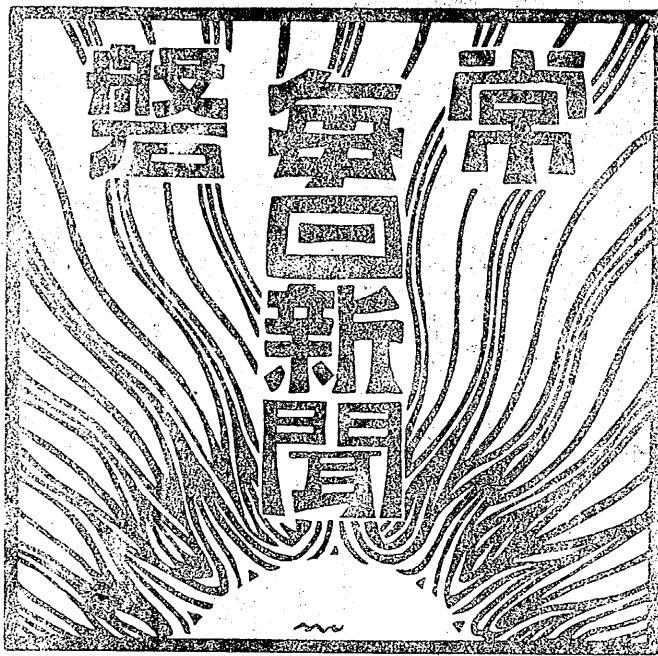
代價拾錢 藤田家傳
藤田榮助
平町四丁目電話三三八番

看護婦派出
の求めに應ず
平町南
平看護婦會
電話三〇七番

「他ノ藥ニテ効能無キ御方ハ龍功散ヲ吞シテ卓絶スル」
登錄 効能ヲ御試下サイ
龍功散

商標 たんせきの妙藥
せんそくの妙藥
本舖 渡邊龍功堂
平町三丁目電話百八番

定價 一部金貳錢
郵税 五厘
廣告 五號十二行 日曜大祭 編島縣石城郡平町長橋町三五
料 字詰一行 日 祝日ノ翌 發行所 常盤毎日新聞社 電話六三〇番
五十錢 日 祝日ノ翌 發行所 常盤毎日新聞社 電話六三〇番



刊夕日十月二

常盤論壇 平民佛教の貴族化 高島米峰

不可思議のことさへ今現に行はれて居る、支那では古くから時の天子諱を憚つて文字を缺畫したものであるが、それに似たやうなことを今の本願寺の末寺の僧侶が強ひられて居るなど、憐むべくまた笑ふべき限りである。最近東本願寺の大谷光演氏が、管長を退職してその長男光暢氏が、就職した時の本願寺の告示の文章の如き、宮中、若くは皇族の方々に於て御使用遊ばさ

れるものと、殆ど同じいものであつて、僭上至極と言はなければならぬ。御門跡様御儀、本日、新門跡へ御讓職、可被遊旨申出さる。の如き「御大體」の如きが即ちそれである。

且つ光暢氏は、この頃まで、大谷大學に在學中の一學生であつたのだが、管長就職と共に大谷大學を退學し別に侍講の如きを任命して法主學を専攻することとなつたといふが如き、何に血迷つてのこゝろか寧ろ噴飯に堪へない。嗚呼、天台眞言兩宗の貴族化したことが、平民的親鸞教の發生する一因だとも言つてよい程眞宗は、平民的でもあつたし、又平民的でないければならぬのにかく

も貴族化したといふことは明に親鸞聖人に引引くものであつて、甚だしい墮落である。元來眞宗は無僧宗、無寺院宗であるのに、形式的な僧侶がへ出來て、衣や袈裟の色で地位の高下を争つたり大きな伽藍を建築してこれが維持のために檀信徒の寄附を強要したりそれさへ既に非常な墮落であるのに更にこの貴族化を以てす眞宗の執行信證は全く本願寺に亡び親鸞聖人の理想精神信仰は毫も大谷家には傳はつて居ない。日本には佛敎は貴族化するに依つてその歴史の生命を失ふこと歴史がこれを證明して居る。平民佛教たりし眞宗も命有様ではその敎宗の生命はもう斷末魔に近づいて來たと見なければならぬ（をばり）

人氣映畫に對する 本社主催の大懸賞 有聲座のライオンマン中に 現れる假面の人が問題

目下帝キネ直營活動常設有聲座上場中の探偵連續狂
闘活劇「ライオンマン」は熱狂的大評判を博して居
るが此畫面中に突如として現れ眞に手に汗を握らしむ
るの大活躍を試みつつある

果して何人か？
且つ善人か？ 惡人か？

参考考

資産家 フレテッソカアベンディッシュ(行衛不明中)
女記者 ステラードノバン(現在活躍中)
青年 ゲムウエストノット(横山所有者)
辯護士 バトリックエツライト(財産を盗まんとする者)
悪人 バートラシー(ラシー團の團長)
青年 ジョンカアベンディッシュ(資産家のオキ)

此解答を募つて當選者百名、夫々賞品を
贈呈す、解答規定は左記の通り

(締切)二月十一日(宛名)平町長橋町三五番警每日新
聞社懸賞係(用紙)葉書(賞品)三重桐葉筒、鏡台、時
計其他ユニバーサル及び有聲座寄贈品正解者多
數の際には有聲座公開の席に於て抽籤を行へ入選者百
人を決す但し選外と雖も洩れなくプロマインドを呈

平驛の新築 本年度着工 工費十萬餘圓

常磐線で仙臺水戸に次ぐ平
町の玄關口である驛の建物が
が狹隘であるためその改装
は多年の懸案であつたがこ
の程東京鐵道局から係官出
張詳細な調査をなして歸つ
たが聞く所によれば總建坪
二百餘坪の二階建てで工費十
萬餘圓を以て十五年度に新
築着手の運びとなるであら

福島醫師鐘紡へ 平 町警病院院長市原卯太郎氏 女婿福島繁氏は今回兵庫縣 加古郡高砂町鐘紡醫局に勤 務することとなり近く出發す る由

石城分場長 杉田氏退く

後進の爲めよ

本縣農事試験場石城分場長
杉田技師は今回後進の途を
拓く爲め退職して安積農會

技師及び郡山市農會の囑託
を快諾したが同氏は本縣農
事試験場に奉職する事十六
年園藝に造詣深く郡山市で
は同氏を囑託して蔬菜栽培
の奨励を爲す方針であるが
石城分場長の後任は農事試
験場長の高木技師が呼聲が
高い

川前村の消防小屋に 軍服を着た縊死体

脱警兵らしいが
手懸り品なく身元不明

磐越東線川前驛を距る三里
の山奥である石城郡川前村
大字谷桶賣消防小屋内に九
日午後一時ごろ陸軍二等卒
の服を来た年廿二歳位の
ものが縊死してゐるのを
消防組員が発見大騒ぎとな
り身元を取調べたが軍隊手
帳と襟章を破壊してあるの
でこのものもと不明とな
り脱警兵らしく九日午後
平署から係官出張視した

木炭不況 相場も下落

濱三郡木炭業概況は目下最
大時期であるにも拘らず需
用極めて減少し當業者は青
息吐息の状態であるが殊に
十一月から十二月に掛けて
は入荷頗る多く滞貨山の如
き有様で投げ賣するものさ
へ續出し相場も相當に下落
して不況のどん底にある

小名濱優漁式 石城

弛るみかできたのです。小
皺は皮膚を組織する表皮眞
皮の細胞が以上の原因並に
血行の不正等より萎縮して
表皮に細な皺を生じますこ
れを除くには營養をよくし
血行を旺にするのは勿論の
こと常に皮膚に刺戟を與へ
絶えず皮膚を促します先づ
脂肪を攝り、又手當として



家庭欄

高久教員住宅 石城 郡高久村にては十一日午前 九時より村會を開き教員住

小ジワの取り方
皺には大ジワと小ジワがあ
ります。大ジワは營養の悪
い時或は發熱等の際に皮
下の脂肪が消失して皮膚に

春の向洋服

今年度の春
向きの洋
服は鼠色
の物が流
行の中心
となる。
之は春帽
子の色調が矢張り鼠の系統
であるところから調子を圖
るために鼠色を地とする事
になつたのである。其鼠色
も稍濃めの物が多く全体の
中一割六分をしめてゐるが
其外中鼠や

鼠地に 紺色の縞を
通した物即ち紺と鼠色の混
合織等が今年の流行として
現れる。そしてこの二三年
位はやつてゐた白に茶黒等

從つて

ボケットが大
大きくなり又胸の開きが
大きく襟の折目が長くなつた
のである。ツボンは依然と
して大きいのがはやりで大
概裾廻りが甘インチ位が普

磐越東線の 列車に投石

窓硝子破損
九日午後四時十分頃磐越東
線赤井小川郷間を平發郡山
行旅客列車が進行中十二歳

石城海兵志願 石城
における海軍志願兵の検査
は十二三兩日執行する志願
者少く配當人員七十五名に
達しないのではないかと郡
當局も悲觀してゐたが九日
現在七十五名に達したので
検査當日までは尙應募者
ある見込みで當局も喜んで
ゐる

研町福運者

研町福運者
既報目下聯合賣出し中であ
る平町研町通りの當籤福運
者は左記の如くで非常な人
氣を沸かして居る
(一等)古鍛冶町草野キヨ
(二等)新町濱田スエ宮炭
(三等)新町濱田スエ宮炭
礦厚田杉雄(三等)綴齋藤
彌平、上荒川草野龍造、内
町仲繪カネヲ、小島坂本
儀喜エツ、長橋町鈴木捨
之助、同吉村勇、同關内
半平、材木町瀧田屋

平町物價

| 品名 | 單位 | 價格 |
|-----|----|------|
| 白米 | 一升 | 四二〇 |
| 白米 | 二升 | 四二〇 |
| 白米 | 三升 | 四二〇 |
| 白米 | 四升 | 四二〇 |
| 白米 | 五升 | 四二〇 |
| 白米 | 六升 | 四二〇 |
| 白米 | 七升 | 四二〇 |
| 白米 | 八升 | 四二〇 |
| 白米 | 九升 | 四二〇 |
| 味噌 | 一升 | 七五〇 |
| 味噌 | 一升 | 七五〇 |
| 醬油 | 一升 | 一〇〇〇 |
| 清酒 | 一升 | 一〇〇〇 |
| 木炭 | 一貫 | 三六〇 |
| 糖 | 一貫 | 二九五 |
| 砂糖 | 一貫 | 二九五 |
| 豚上肉 | 同 | 一六〇 |
| 豚並肉 | 同 | 一四〇 |
| 牛上肉 | 同 | 一四〇 |
| 牛並肉 | 同 | 一四〇 |

募集

文藝其他投稿
を募集します
ので見物人は總立ちとなり
幕を上げて附近の醫師の手
當をうけたが生命危篤であ
る

平町人事

出生
△新川町二二 當時石城郡内郷村
△谷留吉氏四男文治
△月見町四〇 當時安積郡喜久田村
齊藤真雄氏二男重二郎
△月見町二五 根本一馬氏長男眞美